2015年　春の大縦走

　丹後山と巻機山とを結ぶ上越国境の稜線には登山道がない。無雪期だと水の入手も大変である。従って、残雪期が一番歩きやすい。とは言うものの、雪が腐っていたり、クレバスが走っていて、一筋縄では歩けない。おまけに藪漕ぎを強いられる部分も少なからず存在する。

　この大変困難な縦走に何回も挑戦した末、今年遂に踏破に成功した。

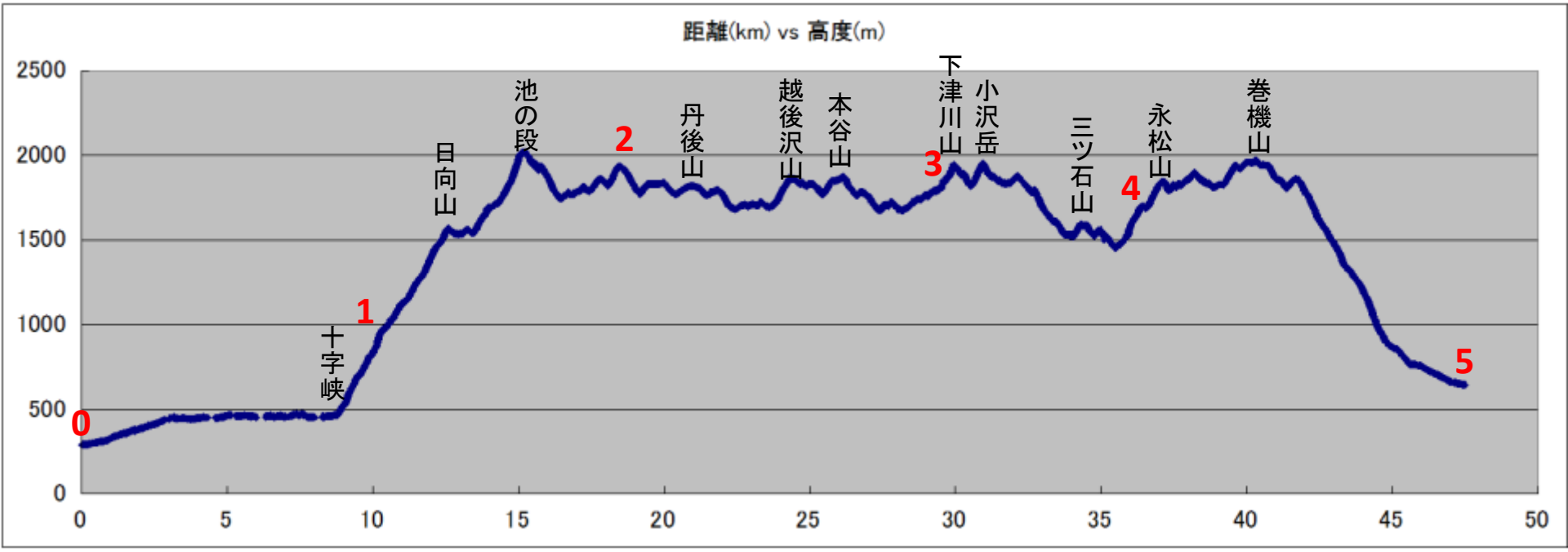
コース:
野中～（中ノ岳）～**丹後山**～越後沢山～下津川山～三ツ石山～**巻機山**～清水

日程:
2015年4月21日～25日（4泊5日）

コース地図

0: 起点（野中）、1〜4: 幕営地、5: 終点（清水）　○ : 雪の難所　● : 藪

コース　断面図 「距離(km) vs 高度(m)」



0: 起点（野中）、1～4: 幕営地、5: 終点（清水）

はじめに

本山行の目的は、丹後山～巻機山の踏破であった。
同行のSKさんは、00年代半ばから4回目の挑戦であった。ぼくは2007年にSKさんと三ツ石山手前まで行って引き返した時以来2回目であった。

計画に先立ち、次の2点を検討した。
（1）丹後山から歩くか、巻機山から歩くか。
（2）十字峡～丹後山のルート。十字峡から直接丹後山に登るか。中ノ岳を経由するか。
これらについては、次のようにした。
（1）巻機山周辺は何回も歩いているので、丹後山方面から巻機山を目指す。
（2）直接丹後山に登るには、三国川（さぐりがわ）の激流の横の雪の急斜面を1時間にわたりトラバースし続けなければならない。それはかなり怖いので5～6時間余分に掛かるが、中ノ岳（正確には九合目の池の段）経由とする。

行程については、インターネットで調べた中の最遅コースタイムをベースに計画をたてた。その結果4泊5日＋予備日1日の計画となった。時間的にかなり余裕があると考えていたが結果的にはぎりぎりであった。

2015年4月21日（火） 東京≡（新幹線）≡越後湯沢≡六日町≡野中－十字峡－二合目

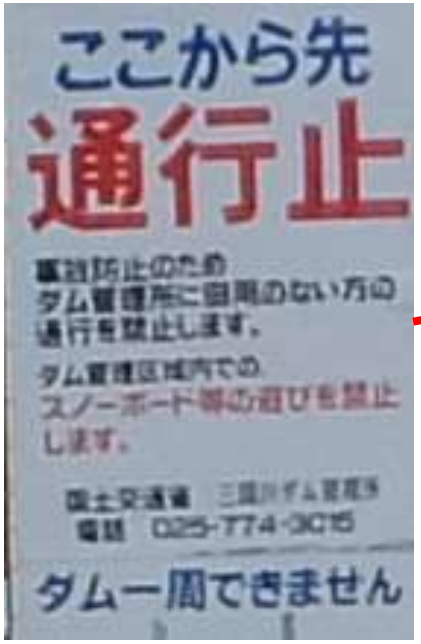
上越線の水上11：40発長岡行きの列車は休日のみの運転であり、また初日の行程を楽にするためにも、普段は回避している新幹線を利用した。おかげで東京から2時間半で野中に到着した。

野中バス停

野中行きのバス

六日町駅前バス停

六日町駅前バス停



野中から歩き始めてすぐにこの看板が現れた。悪い予感がした。

道端にはフキノトウの芽が出ていた。
ラーメンに入れて食べようと採取した。

三国川（さぐりがわ）ダムまで登ってきたら、またもや通行止めの表示があった。

その表示は無視して通り過ぎたけれど、トンネル出口が凄い、デブリで埋まっている。通れるだろうかと不安になった。

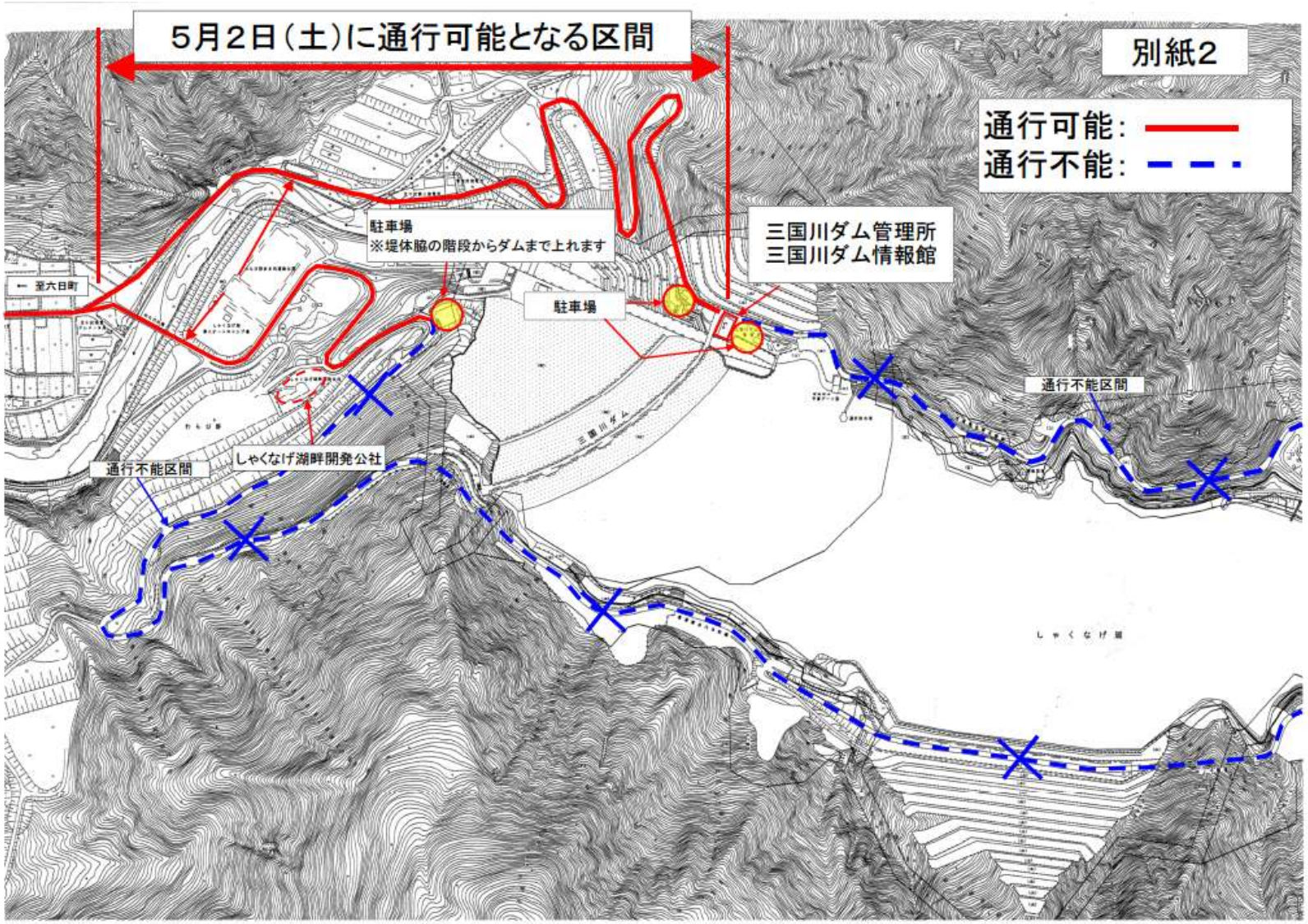
（注）デブリ＝雪崩で崩落した雪塊

この日の最大の難関はシャクナゲ湖畔のデブリの通過だった。
特にひどかったのが、この写真のダムの横の「わらび野トンネル」出口と十字峡に近い「はちえもんトンネル」出口だった。

はちえもんトンネル出口のデブリをよじ登って先を見て、アイゼンを着けないと怖くて通過できないということが分かった。滑落したら湖に落ちそうな所もあるのだ。

何とか無事に十字峡に着いた。
手前の建物は東電五十沢第一発電所
（いかざわ）

三国川ダム管理所のWebsiteにこんな地図があった。
http://www.hrr.mlit.go.jp/saguri/
この地図の下の方の青い線（＝通行不能）を歩いたというわけだ。



十字峡に着くまでにかなりの体力、精神力を使い果たしてしまったので、できればこの日は十字峡で幕営したかった。しかし、この先実際にどのくらい時間が掛かるか、行ってみないと分からないという状況にあったし、まだ時間も早かったので予定通り二合目まで行くことにした。

丹後山に直接登るには、三国川の左岸（右の写真では右側）の雪の斜面を左下の激流に沿って1時間くらいトラバースしなければならない。それはとても怖く、危険だということで、「はじめに」に書いたように数時間余分に掛かる、日向山～兎岳経由のルートを選択した。

中ノ岳の登り自体はそれほどのものではなかった。二合目手前の鎖場も全く問題なかった。

一部夏道が出ているところがあった。

二合目に適地があったので、若干狭いが幕営することにした。

昨年、白毛門でも見かけたイワウチワ。

2015年4月22日（水） 二合目-日向山-池の段（稜線）-小兎岳-兎岳

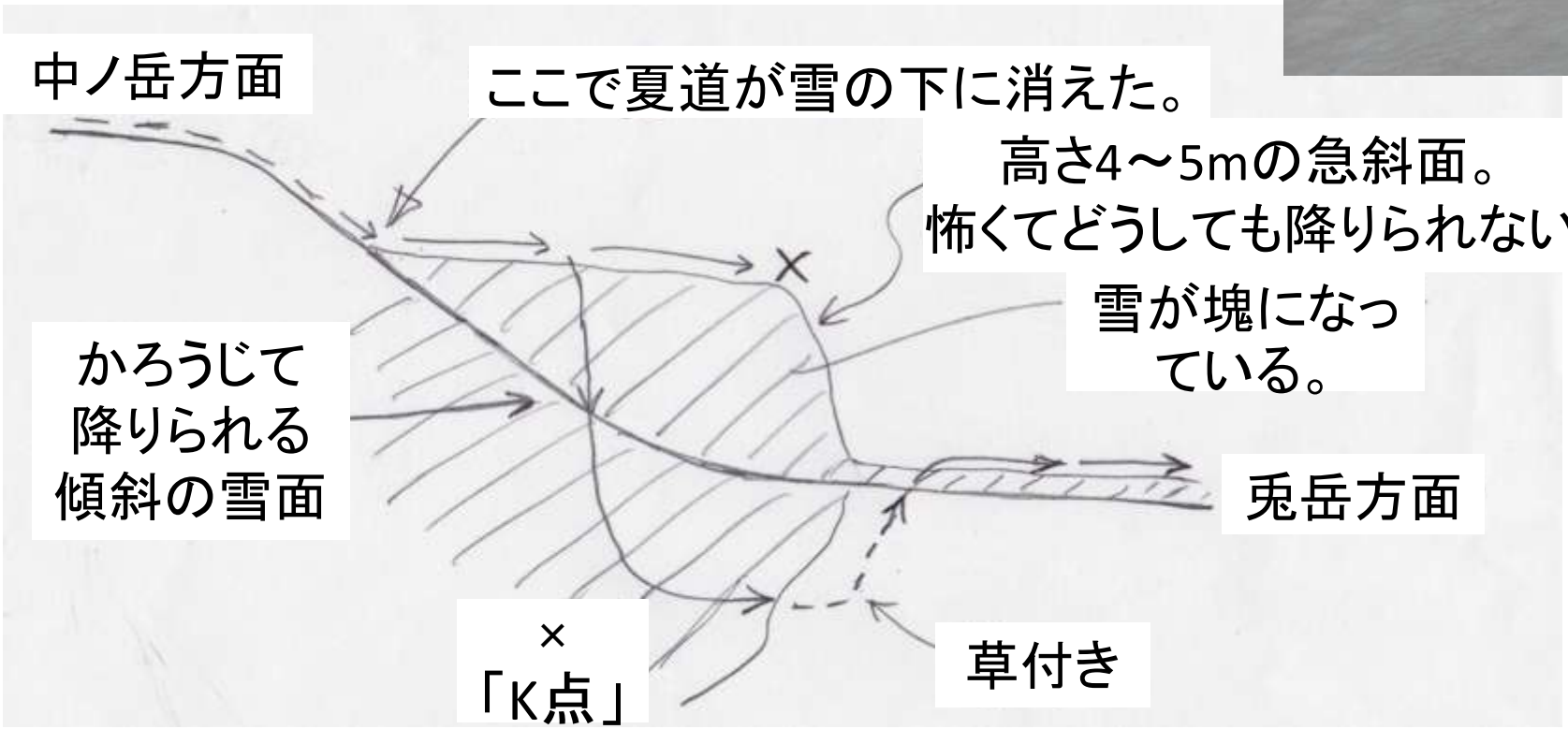
この日は、中ノ岳（池の段）までの登りが体力的には大変だった。特に日向山の登りの急傾斜は、まだ慣れないうちだったせいもあり恐怖心を覚えた。
山頂近くになり、同じような急斜面になったが慣れてきて恐怖心は和らいだ。

中央少し上に見えるのが歩いてきた日向山

中ノ岳8合目付近の急登

池の段から下っていくと、すぐに夏道が現われた。更に下ると道は雪に埋まっていた。覗きこむと雪の斜面が急過ぎて下りられない。しばし逡巡した挙句、西側を巻くことにした。それにしても急斜面であるが、最後には何とか西側を巻いて通過した。

かろうじて降りられると言っても油断すると滑落する。「K点」付近で何とか停止した。



兎岳から丹後山～越後沢山～本谷山～下津川山方面を望む

兎岳の標識は紛らわしい。疲れているせいで一瞬「中ノ岳」と思ってしまった。よく見ると、その下に「3.3km」と書いてある。

この山頂は平だったが岩がゴツゴツしていたので、テントは数十m南に進んだところに張ることにした。

なるべく綺麗と思われる所で雪を袋に詰めてテントの入口においておく。

2015年4月23日（木） 兎岳-大水上山-丹後山-越後沢山-本谷山-下津川山手前
（しもつごうやま）

丹後山に至り、いよいよこれから本来の目的地に踏み込みことになった。越後沢山まで、そして本谷山までは残雪上を快適に進むことが出来た。この分なら楽勝という気分になった。確かに本谷山までは問題なく進めた。問題はその先だった。下津川山までは藪が続いた。本谷山から十字峡に降りる道が稜線上にあるはずだったが、進むのは楽ではなかった。

その先の道は殆ど藪だった。下津川山と小沢岳の鞍部に良い幕営地があると睨んでいたのだが、時間切れで下津川山までは行き着けなかった。

大水上山は群馬県の最北端。即ち、利根川の最北の水源である。

大水上山近くには「利根川水源の碑」がある。

本山行の本来の意味での出発点である丹後山山頂に到着した。ここから300mほど行ったところからいよいよ道なき道が始まる。

この日の行動記録によると、全行程10.7kmのうち、越後沢山までの5.7kmの所要時間は4:10（1.37km/h）、残りの5.0kmの所要時間は6:40（0.75km/h）であった。

体力、上り下りなどもあるが、最大の要因は残雪と藪の違いによるものである。

丹後山のすぐ南にある避難小屋。

いよいよ核心部に突入、本谷山までは広い稜線が続き、残雪の上を歩くことが出来、非常に捗った。

本谷山山頂にて

2012年7月撮影
（駒ヶ岳ファンクラブ　ブログより）

下津川山（中央）方面を望む。左は小沢岳、右は巻機山。
写真では分かりにくいが、この先はずうっと藪が続いた。

本谷山を過ぎると尾根は痩せてきて、藪漕ぎとなった。こうなると俄然大変な行軍となる。特にアイゼンの前爪が笹などに引っかかり、前進できないどころが転びそうになる。

藪が腰の高さ位でも、その抵抗は大きく、決して楽ではない。

場所によってはピッケルが邪魔になる。両手を使いたいと思って背中とザックの間に入れると背中が痛いし、難しい問題である。

できれば下津川山を越えたかったが、16時近くなり、まだまだ藪が続きそうだったので、適地を見つけて幕営した。

この夜は次第に風が強まって来た。今にも吹き飛ばされそうで怖かった。翌朝のテント撤収は飛ばされないように細心の注意が必要だった。

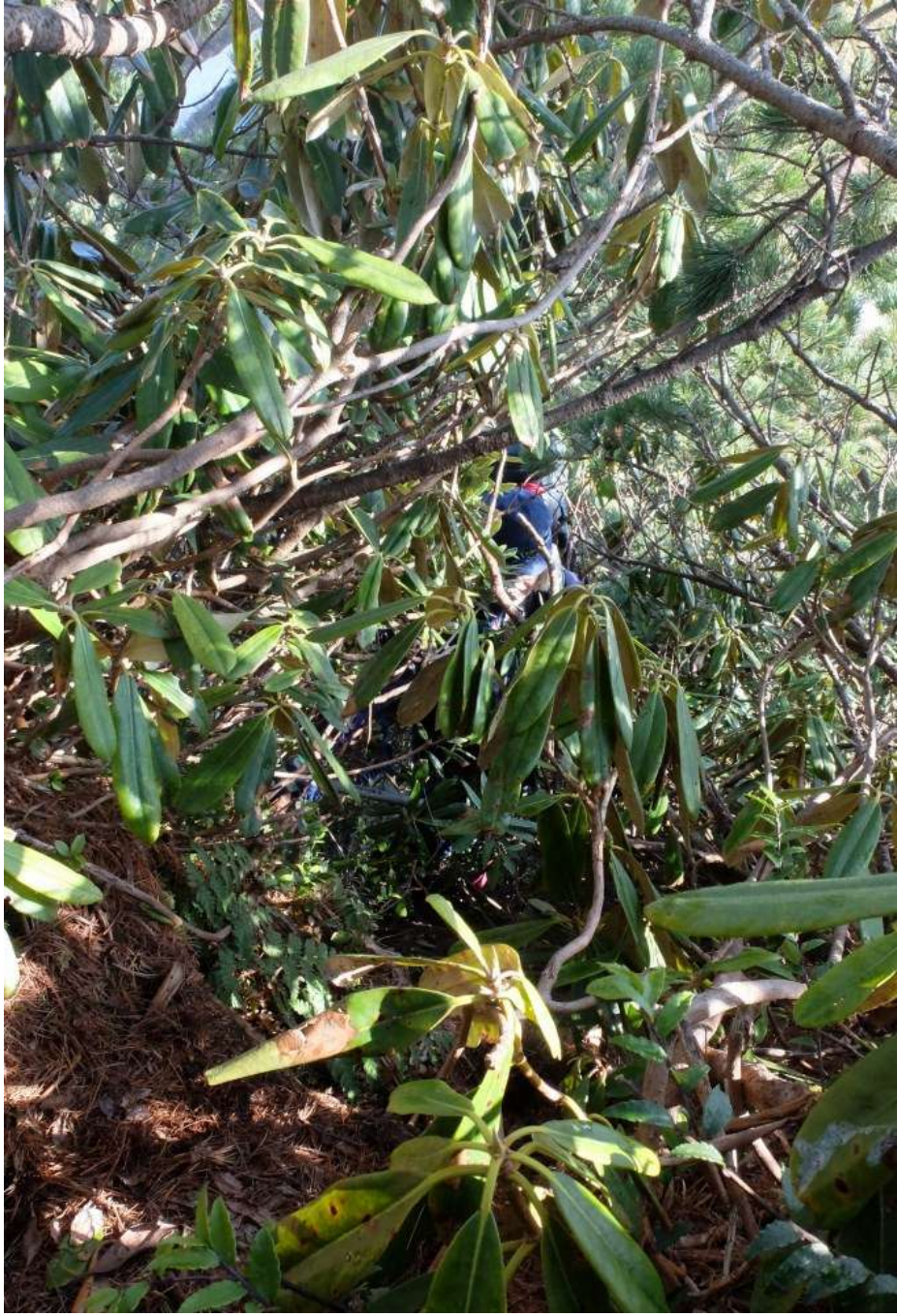
正面に見える下津川山までは藪の連続。

2015年4月24日（金） 下津川山-小沢岳-三ツ石山-東五十沢山
（しもつごうやま） （ひがしいかざわやま）

幕営地から下津川山までの道は、予想通りほとんど藪だった。しかも下津川山から小沢岳との間は尾根が狭く緊張を強いられる難所であった。また、東五十沢山の登りの藪は2007年にも経験した所で、この日第二の難所であった。

下津川山の最後の登り

下津川山山頂



下津川山～小沢岳の痩せ尾根＋藪の難所。

小沢岳山頂より、
右は下津川山、その向こうは
中ノ岳、越後駒ケ岳。
左奥は八海山。

小沢岳山頂より、右の途中
にあるのが三ッ石山、奥は
巻機山。

右の手前にあるのが三ッ石山、
中央奥は巻機山。

三ッ石山山頂直下の藪。
この日は半分以上が藪と言った感じのコースだったので、アイゼンは終日使用しなかった。残雪は軟らかかったので、この判断は正解であった。

三ッ石山付近より、東五十沢山（左の平らな山）、永松山（右の高い山）、巻機山（右奥）。
東五十沢山の上りの途中にクリスマス・ツリー形の大藪が見える。

クリスマス・ツリー形の大藪に突入した。標高差105m、水平距離255m、その通過に1時間半掛かった。

即ち、垂直速度70m/h、水平速度170m/h、勾配22°。8年前の敗退時にも登ったが、本山行屈指の難関であった。

大藪を抜けると15:20過ぎだったが、水平な場所がなく、結局東五十沢山山頂まで行って幕営した。テント設営の時、風が強く、この日の朝と同様に苦労した。

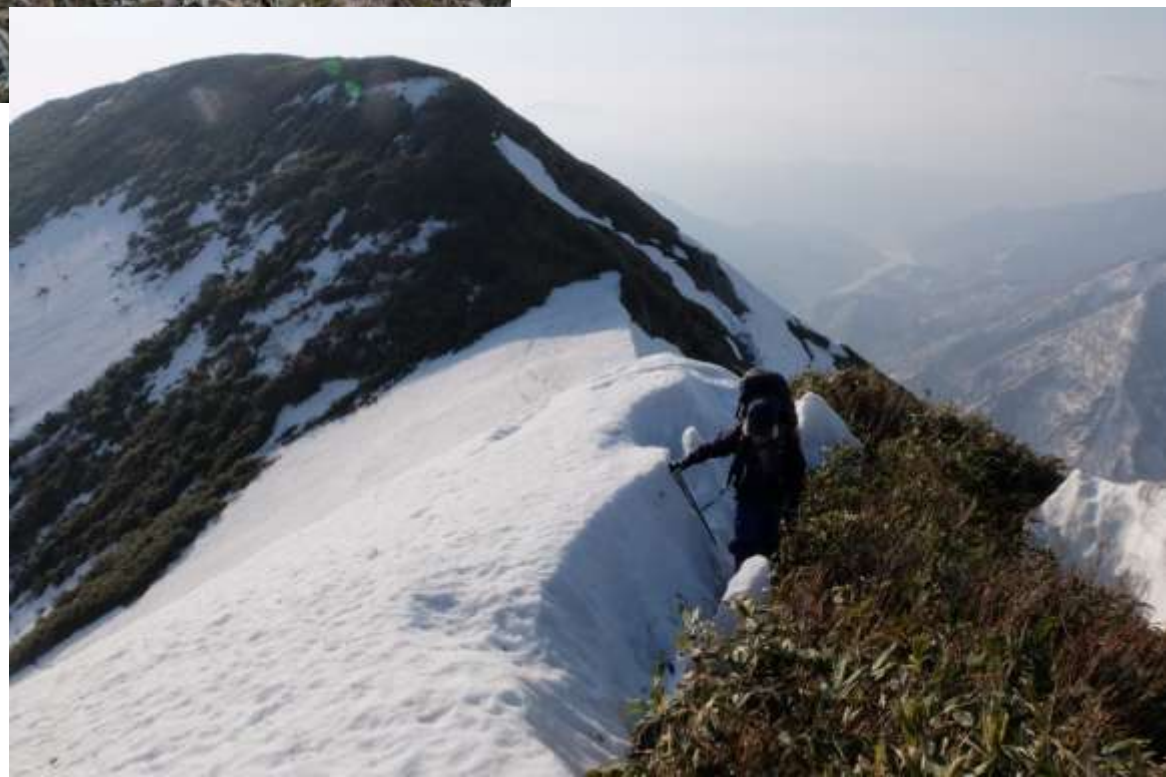
翌日は、この永松山の登りから始まるが、いくつも見える亀裂が一寸気がかりである。

2015年4月25日（土） 東五十沢山-永松山-巻機山-清水=塩沢≡水上≡高崎≡上野

朝の予測では、この日の到達地点は巻機山避難小屋、行けても清水か手前の桜坂駐車場であった。ところが桜坂駐車場で気がついてみると清水13:45発のバスに乗れそう、というわけで急いだら、元々の行動予定表の通りそのバスに乗ることができた。

永松山（中央）と巻機山（左奥）

最後の最後まで藪がつきまとう。
ここは永松山を越えた辺り。



牛ヶ岳の南側をトラバース気味に登っていく。

遂に巻機山が目前に迫ってきた。

巻機山山頂。この辺りはいつも雪がなく地面が露出している。

ここまで4日間は誰にも会わない静かな山旅だったが、巻機山の下りは20人位の登山者とスキーヤーで賑わっていた。

巻機山避難小屋付近。山頂とは対照的に雪が多く、小屋はほとんど埋まっていた。

巻機山から清水を目指して下山。

2007年、2012年、2013年は敗退下山だったが、今回は凱旋下山だ。体力的には限界に近かったが、心は達成感で満たされていた。

桜坂駐車場では例年のように桜が咲いていたが、雪に埋もれていた。時計を見ると、バスの発車時刻まで30分弱であった。急げば間に合いそうなので、未だに除雪されていない道でのラストスパートとなった。

清水からのバスの運転手は何と4日前の六日町～野中のバスと同じ人だった。

塩沢の牧之通り（鈴木牧之に因む）

六日町では乗り換え時間が10分位しかないので、塩沢駅から300mにあるバス停で降りた。

塩沢駅

本山行は、実働合計40時間、1日平均8時間という厳しいものでした。時に24日は全体に下りが多かったにも関わらず、下津川山周辺・東五十沢山の登りなど藪が多く最難関の日であった。

2015年	水平距離(km)	行動時間	実働時間	平均速度(km/h)
4月21日	10.0	6:10	5:20	1.88
4月22日	8.1	9:40	8:20	0.97
4月23日	10.7	10:50	9:20	1.15
4月24日	7.1	10:50	9:30	0.75
4月25日	11.0	8:50	7:30	1.47
計	46.9	46時間20分	40時間00分	1.17

避衆登山の記録

山域	時期	避衆時間	備考
大無間岳	2007年8月	41.6	
会津朝日岳～三岩岳	2008年5月	69.0	
帝釈山脈	2011年11月	47.6	2人山行
天子山塊	2012年6月	42.6	毛無山山頂で人を見かけた
幌尻岳	2012年9月	115.1	2人山行、停滞日を含む
白砂山～苗場山	2013年5月	54.3	2人山行
皇海山～奥白根山	2013年11月	69.0	
丹後山～巻機山	2015年4月	96.5	2人山行